

特集 2016年ランドスケープコンサルタンツ協会賞(CLA賞)

CLA Journal No.177

CLA journal
Consultants of Landscape
Architecture in Japan
no.177



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

会 長：枝吉茂穂
副会長：島田正文・石川 純・宇戸隆雄
専務理事：内藤英四郎
事務局長：狩谷達之

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8F
TEL：03-3662-8268 FAX：03-3662-8268
HP：http://www.cia.or.jp e-mail：info@cia.or.jp

支部事務局

北海道支部	〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目 山京ビル408 北海道造園設計協内
支部長：及川 渉 事務局長：松野智絵美	TEL：011-768-2281 FAX：011-709-5341
東北支部	〒010-0973 秋田市八橋本町4-10-26 錦線設計内
支部長：板垣清美	TEL：018-862-4283 FAX：018-862-4273
関東支部	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル
支部長：新井 豊	TEL：03-3662-8268 FAX：03-3662-8268
中部支部	〒460-0003 名古屋市中区錦1-19-24名古屋第一ビル6F 緑地設計画建築研究所 名古屋事務所内
支部長：尾関利藤	TEL：052-202-1411 FAX：052-220-3760
関西支部	〒530-0022 大阪市北区浪花町12-24 錦ヘッズ内
支部長：津田主税 事務局長：中西広樹	TEL：06-6373-9369 FAX：06-6373-9370
九州支部	〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町2-3 フジランドビル6F サンコーコンサルタント㈱ 九州支社内
支部長：大杉哲哉 事務局長：佐藤宣之	TEL：092-271-2900 FAX：092-262-1146

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、
人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、
環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、
安全で豊かな環境の創出、
すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1

ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を
継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2

新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、
技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、
技術競争の時代に対応します。

3

社会的信頼を獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、
内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4

開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、
多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5

魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として
広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月

「新しい環境文化の創造 —造園コンサルタントビジョン—」より



特集：2016年 ランドスケープコンサルタンツ 協会賞 [CLA賞]

優秀賞

【設計部門】

史跡田主丸大塚古墳整備実施設計 2

【設計部門】

TRI-7 ROPPONGIと天祖神社のランドスケープ 4

【設計部門】

横浜市庁舎緑化再整備～街のリノベーション～ 6

【マネジメント部門】

七時雨山のトレイルランニングを通じた地域振興と文化的景観の保全 8

特別賞

【設計部門】

第32回全国都市緑化あいちフェア会場設計 10

奨励賞

【設計部門】

北野天満宮境内整備—平成の大改修「紅梅殿別離の庭」 12

【調査・計画部門】

碧南レールパーク 13

CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし 14

2016年CLA賞 受賞技術者 プロフィール 15

都市公園再生プロジェクト

“身近な公園の再生”と“ランドスケープによる
ふるさとの防災と地域再生”の提案 18

支部報告 22

会員名簿 26

表紙のPhoto Story

表紙のデザインは、2016年CLA賞の優秀賞4作品の写
真をコラージュしたものです。古墳公園、民間開発ビル
の外構、市庁舎周りの緑化拡充、中山岡地における地域
おこしと、変化に富んだ内容です。いずれの作品もしっか
りとした技術に裏付けられた取組みであり、プレゼンテー
ションも明快で解りやすく、高い評価を受けました。

ランドスケープへのニーズがますます広がってゆく中で、
各技術者が対応力を高め、クライアントの要請に確実に
キャッチアップしていることが、窺われます。優秀賞以外
の作品でも、景化に関する新技術の展開や歴史的庭園の
再生、土地の記憶の継承といった、新たな境地を舞台と
した作品が受賞しました。

私達ランドスケープアーキテクトに求められる役割の広
がりを感じずにはいられません。



優 秀 賞

設計部門



地域の雨水対策と古墳公園整備との 一体化にチャレンジ～田主丸大塚古墳整備～

株式会社アーバンデザインコンサルタント
棚町修一・堤八恵子・大杉哲哉・小峯裕、
扇輝久
プランニング横田 横田望
ブルドジオテクノ 花田俊弘

田主丸大塚古墳は久留米市東部の東西に連なる耳納山地の北麓の扇状地に位置しており、眼下に筑後川中流域の平野部一望することができます。計画地周辺には古墳群や寺社などの文化財や果樹園が多く、歴史探訪や観光農園として賑わいを見せています。

本古墳は本来、前方後円墳ですが開墾等により前方部がなく、周溝などの関連遺構も埋藏等によりその姿を見ることができなくなっていました。さらに、扇状地の入口に位置するため、周辺からの雨水が集中し、雨水被害が多発していました。

作品概要

作品名——地域の雨水対策と古墳公園整備との一体化にチャレンジ～田主丸大塚古墳整備実施設計～
所在地——福岡県久留米市田主丸町石塚2-1
発注——久留米市役所
設計——株式会社アーバンデザインコンサルタント
設計協力——プランニング横田 横田 望
ブルドジオテクノ 花田 俊弘
監理——久留米市役所
設計期間——基本計画 平成23年10月～平成24年3月
竣工時期 平成27年3月
実施設計 平成24年10月～平成25年3月
施工期間——平成27年3月竣工
規模——12,500㎡
主要施設——前方後円墳、周溝、造り出し、解説板・案内板、ベンチ、遺構展示施設

作品評

本作品は、前方後円墳とその関連遺構の再現を図りつつ、計画地の下流側への排水負荷軽減のために、計画地内に雨水貯留ができる施設を設けたものである。文化財関係者はもとより、下水道や公園整備、地元住民等の多くの関係者との調整を行った。
遊水池を分散させつつ、各種の排水施設を史跡公園としての景観に調和させ、確かな効果をもたらしたことは、地域防災に貢献しているとともに、クライアントからの難しい要望に対応した好例と云える。現況や課題を丁寧に調査・分析し、要望に対して技術的に対応している。雨水処理という基礎的技術と、遊水池を広場として利用したり、古墳の周溝を排水施設として機能させるなど、前方後円墳の再現と公園としての利用性や景観性にも配慮して、工夫にあふれている。整備された古墳公園は遺構展示等も十分に行われ、公園整備としても良好な事例であると認められ、優秀賞となった。

設計部門



整備前



整備前



前方後円墳の再現と古墳公園整備



雨水貯留施設、園路、周溝の整備



くつろぎ広場



後円部から筑後平野の眺望



排水機能を持つ再現された周溝

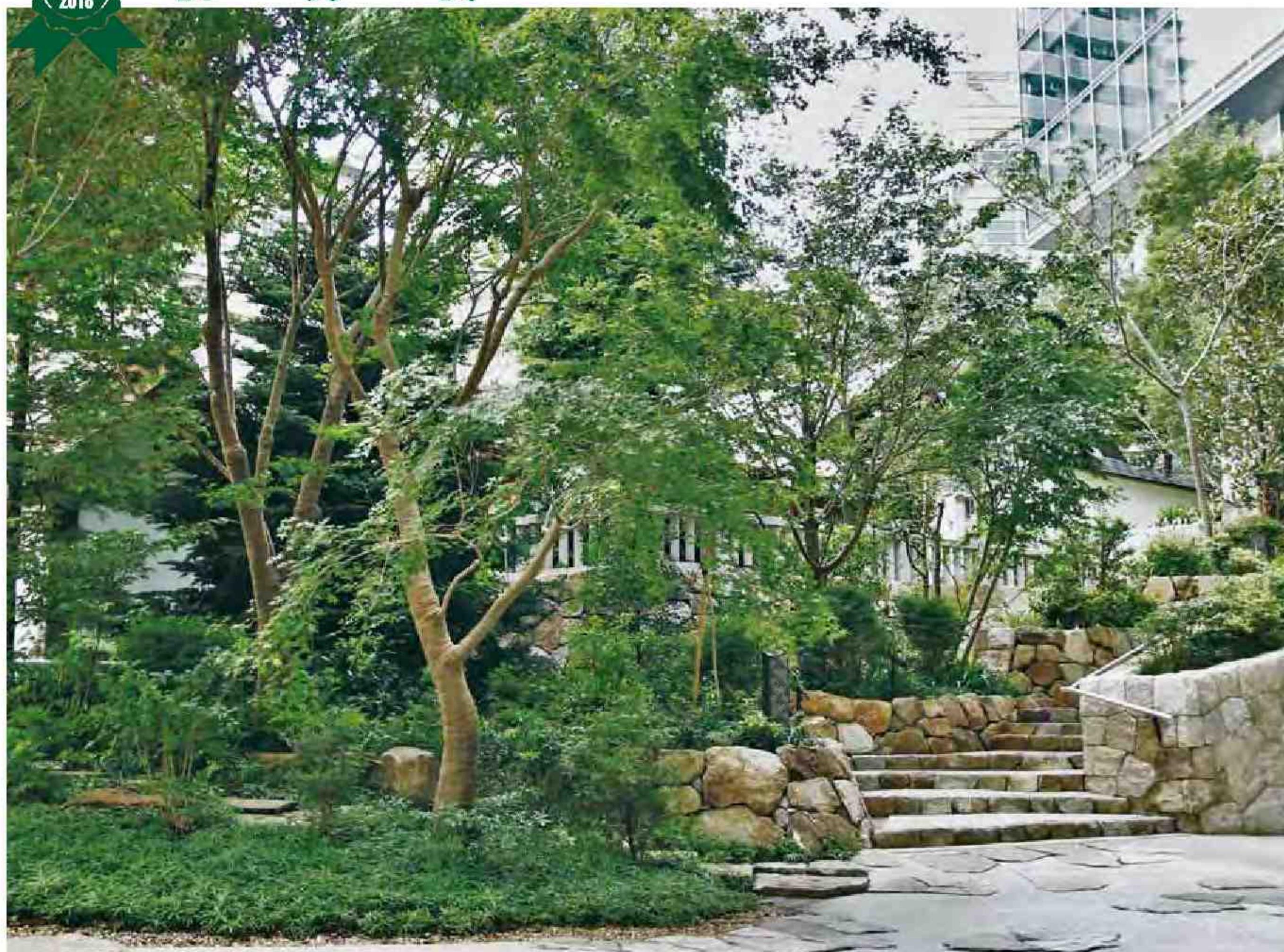
本設計では、①古墳を構成する前方後円墳、周溝、造り出し（祭祀の場）の再現、解説サイン等を整備し学校教育や生涯教育等に活用できる歴史学習の場を創出すること、②周辺から集まる雨水を周溝や一時貯留施設を活用し、ゆっくりと下流側に流すことで下流側への雨水集中による被害の減少を図ること、③古墳を活用したくつろぎの場、シークエンス景観を楽しめる空間を創出し、地域活動や観光振興の拠点となる古墳公園とすることを目標としました。

この整備により、地域住民はじめ歴史愛好家や小中学校の来

訪が増加し、歴史学習や生涯学習の場として繰り返し利用されるようになってきました。

また、最近多発している集中豪雨においても、整備地内の雨水被害は発生しておらず、近隣からは雨水被害が減少していると報告を受けています。

さらに、古墳公園が整備されたことでウォーキングや憩いの場として利用が多くなり、観光農園や地域イベントとの連携も増え、地域活動や観光拠点として活用されるようになってきました。



作品概要

作品名 TRI-7 ROPPONGIと天祖神社のランドスケープ
 所在地 東京都港区六本木7丁目7番7号
 発注者 ベンローク・リアルエステート・ジャパン・エルエルシー
 設計者 慶植物設計事務所
 設計協力 竹中工務店東京本店(建築設計)、光井純アンドアソシエーツ建築設計(外観コンセプトデザイン)、内原智史デザイン(照明計画)、八島デザイン(サイン計画)
 監理 慶植物設計事務所
 施工 竹中工務店東京本店
 設計期間 2011年01月~2014年03月
 施工期間 2014年04月~2016年03月
 規模 敷地面積 約4,900㎡
 主要施設 事務所・店舗、神社および関連施設

作品評

本作品は、海外テロップパーと由緒ある神社が一体となって行った開発事業で、5年間という業務期間を経て、現在も維持管理の監督者として参画している。
 計画地での景観形成が持つ広域的な意味、都心独特の多彩な表情を持つ周辺空間との親和性、こうした課題にしっかりと応えた作品である。特に、周囲のまごづくりとの関係性に注力され、多彩で、良質で、心地よい空間が生み出されている。こうした結果は、緑の質を評価する東京都の「みどりの計画書」で最高ランクを取得したり、SEGESによるオアシス認証を受けたりと、外部からも高い評価を受けている。駐車場と化していた境内を、地域に向けて開いた境内広場としたことで、地域コミュニティの拠点ともなっている。写真を中心に構成された資料は、コンセプトが明快で解り易く、優秀賞となった。



(左頁) TRI-7と神社の間に創出した「燈籠の社」①秋に行われた例大祭は氏子や地域の方々で賑わう ②森とピロティが一体に設えられた「フォレストプラザ」 ③盆踊りを想定した広い境内広場と神社の縁起木サトザクラ「福徳木」 ④変電施設躯体を活用した池を囲める縁石

TRI-7 ROPPONGIと天祖神社のランドスケープ

株式会社 慶植物設計事務所

山野秀規・山本紀久・丸山英幸・中井理佐子(故人)・渡邊幸太・田中秀樹・倉田香織

施設の「先進的なエリア」に隣接する一方、小規模で高密度な市街化が進んだ「昔ながらの六本木の街並み」にも面した場所に立地しています。

TRI-7事業主は、この両面性を活かしながら「ここならではの良質な外部空間を設えること」、また、ビルユーザーや自然が極端に少ない周辺地域のために「自然な雰囲気や植栽を可能な限り行うこと」の2つを強く求めています。

一方、この地で江戸期から続く天祖神社は、かつての町名「龍土町」の由来にもなった由緒ある神社です。周囲の市街化と

本計画は、世界中で優良な不動産の長期的な開発・運用を得意とするTRI-7の事業主と、江戸期から続く神社とが共同で行った開発事業です。

計画地は、東京ミッドタウンや新国立美術館といった大規模

にもマンションや雑居ビルに囲まれ、通りからは存在がわからないほどのビルの谷間に位置し、境内地の狭さから権限にも制約が出るなど、将来的な神社のあり方を考える上で大きな課題となっていました。

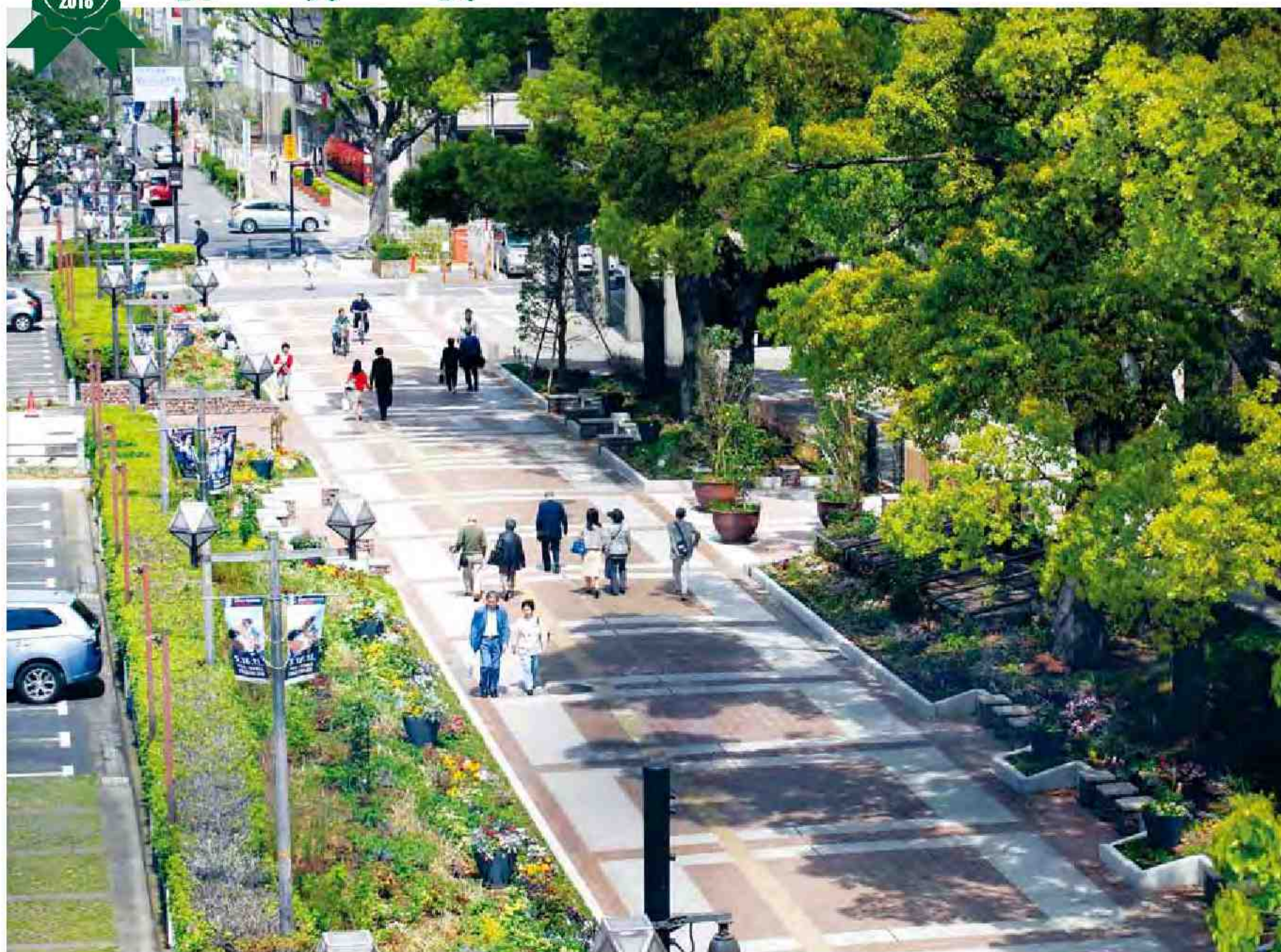
そこで、ランドスケープ計画では、由緒ある天祖神社とTRI-7が各々の事業を尊重しながら、一体的な外部空間と緑を創出・共有することでお互いに利益を享受し、かつ各々の街の様相に見合った外部空間と緑によって多面的な街を繋ぐこと、をテーマとしました。

具体的には、①境内広場と一体的な外部空間と木立、②電線地中化に伴う変電施設躯体を活用した池と森、③巨大な壁面緑化によるビルの谷間の圧倒的な緑量の空間、などを創出し、年

月を経て街が抱えていた諸課題を改善しながら、ここならではの外部空間を構成しました。

植栽は、周辺のかつての土地利用で見られた様々な緑をモチーフに、神社の社叢に見立てた樹林や境内苑、雑木林、庭園木などのほか、都市的な並木や人工地盤緑化、壁面緑化といった現代的な手法を組み合わせ、限られた空間の中に多様な形態で緑を配しました。

現在では、双方の街並みに面した低層部の商業テナントもオープンし、ビルユーザーだけでなく多くの来訪者も自然な緑の中でゆったりと過ごされています。また、今秋には竣工後初めての例大祭が行われ、広く使いやすくなった境内広場に多くの地域の方々で賑わいました。



横浜市庁舎緑化再整備 ～街のリノベーション～

株式会社グラック

北川明介・井野貴文・岸井悠子

横浜市は、市域の緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承することを目的とし、「横浜みどりアップ計画」を策定した。この計画では、公共施設の緑化を「市民が実感できる緑をつくる」という取組みとして位置付けている。

本業務の目的は、この公共施設の緑化の主要事業として、くすのき広場や横浜市庁舎の足元を含む周辺の緑の量と質向上を

図るための再整備計画・設計を行うことであった。

横浜市庁舎が位置する街区は、関内地区のネットワーク街路の拠点であり、「みどりの回廊軸」としても重要な空間である。また、くすのき広場や横浜市庁舎の足元の造園空間が整備されて40年以上経ち、老朽化が進行していたため、くすのき広場を含めた市庁舎周辺の緑化再整備が課題となっていた。

本計画・設計では、社会が成熟し、市民の価値観が多様化する時代を踏まえ、「緑化再整備を通して、街の価値を再構築（リノベーション）する」をミッションとし、緑の力（ポテンシャル）を活かした3つのリノベーションの提案を行った。

作品概要

作品名—— 横浜市庁舎緑化再整備～街のリノベーション～

所在地—— 横浜市中区港町1丁目1番地

発注—— 横浜市環境創造局公園緑地整備課

設計—— 株式会社グラック

監理—— 横浜市環境創造局公園緑地整備課

施工—— 関内駅前：富士造園株式会社

横浜公園側：株式会社新正園

くすのき広場：株式会社サカタのタネ

設計期間—— 2012年10月～2014年8月

施工期間—— 2013年9月～2015年3月

規模—— 約1.0ha

主要施設—— ふとんかごスツール、サイドテーブル、ふとんかごウォール、緑化ルーバー

作品評

本作品は、「くすのき広場」を含む市庁舎周辺の、緑の量と質の向上を図るための再整備であり、市の新施策を受けて実施されたものである。しかし、こうした背景を含めても、横浜市都市デザイン室を代表する仕事（1974年）である「くすのき広場」のリ・デザインに関わることは大変な勇気を要することであり、本作品はこの重圧に見事に応え、緑の力を活かした、街のリノベーションに成功している。元の骨格デザインを活かしつつ、ガーテニングの手法を活かした多様な緑のデザインと、基軸であるレンガを用いた様々な工夫とディテールとが、現代という時代を表現している。色とりどりの花や緑が染みゆる空間へと一新され、お出迎えと通行と交流という当初目的の機能のみならず、手入れへの参加という新たな行動を生み出した点も評価され、優秀賞となった。



①くすのき広場の多様な植物を立体的に楽しめる植栽デザイン ②駅内駅前空間として来訪者を楽ませる季節で変化する植栽デザイン ③横浜公園側歩道の通行を楽しくする周辺施設と一体感のある緑づくり ④緑に囲まれながら、グループでも利用できる休息空間 ⑤ふとんかごウォール ⑥彩りある草花とトリス ⑦エディブルなナツミカン植栽

多様な緑によって楽しみ、交流を生み出す広場の提案

従前のくすのき広場の逞しいクスノキ並木、横浜市庁舎の柱芯の軸線に合わせた舗装パターンや照明灯等の施設が織り成すリズムカルな空間を活かしつつ、花や葉の色、形、草丈の違いなど多様な植物が目飛び込み、身近に感じられ、会話が弾む空間にリ・デザインする。

季節で表情を変える緑によってお出迎えする玄関口の提案

関内地区の玄関口として、来訪者を気持ちよくお出迎えするため、季節に呼応して表情を変える落葉高木、多樹種を混植した生垣（混垣）、地際の彩りを豊かにする一年草や宿根草等を配植した植栽とする。駅前空間として、滞留しやすくなるよう安

心して腰を下ろせ、待ち合わせ中でも植物を楽しめる空間とする。

風格のある緑によって気持ち良く通行できる歩行空間の提案

横浜市庁舎や横浜公園が醸し出す趣きある通りにふさわしい緑とするため、港に向かう緑の軸線の一部として、横浜公園と呼応した植栽樹のデザインと草花を多用して、歴史を感じさせる彩り豊かな緑が連続していく通り空間とする。

緑の力を活かした空間に再構築したことで、造園業者への委託による植栽管理だけでなく、市職員自らの手による、水やり、花がら摘み、雑草除去等のきめ細かな植栽管理を行うきっかけをつくり、質の高い緑化空間を提供し続けている。



優秀賞

マネジメント部門



七時雨山のトレイルランニングを通じた地域振興と文化的景観の保全

パシフィックコンサルタンツ株式会社

谷彩音・千田 雅明・小野崎研郎・松延穂・千葉清護

私たちは、「七時雨マウンテントレイルフェス」(以下フェス)を通して、七時雨山の魅力を発信し、地域活性化と景観保全につなげる取組みを行っている。

岩手県八幡平市の北端に位置する七時雨山は、カルデラ地形

をなし、山麓では古くから短角牛の放牧による牧草地景観がみられる。山麓の鹿角街道は、歴史の道百選(文化庁)に指定されるなど、自然・歴史・文化の資源の宝庫であるものの、以前はそれらが十分に活用されていなかった。

そこで、七時雨山と周辺の古道や登山道を組み合わせ、トレイルランニングのフィールドとして活用する取組みを立ち上げた。今ある資源を活用し、自然環境への負荷を抑えながら、地域の魅力発信につなげられることが大きな利点であり、冬のス

作品概要

作品名——七時雨山のトレイルランニングを通じた地域活性化と文化的景観の保全
 対象地——岩手県八幡平市
 目的——七時雨山の資源を活かした地域の魅力発信と地域活性化、景観の保全
 体制——実施主体:七時雨マウンテントレイルフェス実行委員会/共催:八幡平市・八幡平市観光協会・八幡平市商工会・田代山共有管理組合・栗沢山牧野 農業協同組合・新町牧野農業協同組合・七時雨口マンの会・浅沢地域復興協議会・寺田地域復興協議会・七時雨パラグライダースクール、クラリー牧場、安比自然学校/目利き:土屋彰氏/全体コーディネーター:取組み支援:パシフィックコンサルタンツ株式会社
 発注——岩手県八幡平市(平成23~24年度)、国土交通省東北運輸局(平成25~26年度)
 期間——平成23年10月~平成27年3月

作品評

本作品は、中山間地の地域活性化に4年間に亘って関わり、地域資源の発掘とその活用方を提案し、その後の様々なマネジメントを経て、現在は地域による自発的な取組みへと移行中である事業のマネジメント成果である。
 あくまでも地元を優先した活動主体とし、その活動をうまく支援・誘導している点、地域独自の景観や産業を活かして、ランドスケープという業態の成果と産業育成を融合させている点、などが評価され、地域活性化の方向を示した「地域マネジメント」のモデルとも云える成果である。マネジメントの手法や具体的内容に目新しさは無いものの、一つひとつの取組みが真摯に行われ、確実な成果を積み上げた点も、現在の結果につながっている。提出された資料も見やすく、活動の目的と内容、その成果と次の展開などが、解り易くまとめられており、優秀賞となった。



①カルデラの景観 ②牧草地の景観 ③鹿角街道を走る選手たち ④トレイルランニングマップ ⑤実行委員会は、丁寧な合意形成を重ねた ⑥総勢100名以上のボランティアがレースを支える ⑦七時雨トレイルランニングクラブの仲間たち ⑧トレイルのメンテナンスには地元ボランティアの力が欠かせない

キー観光に依存してきた八幡平市にとって、夏の新たな需要喚起も期待された。

地元を中心として有志の実行委員会を立ち上げ、平成25年に1回目のフェスを開催した。七時雨山に200名のランナーが集まり、地域住民が主体となって地域活性化に取組んだ成功事例として、地域内外から注目を集めた。

その後の課題は、一過性のイベントから通年の交流人口の拡大につなげること、七時雨山ならではの牧草地景観を保全することであった。目利き(アウトドアの専門家)と地域の協働による地域資源の磨き上げを経て、資源の商品化(ツアー化)を図るとともに、マップや動画等のプロモーションツールを作成した。また、牧草地の保全に向けた第一歩として、短角牛の美

味さを伝える取組や、現状への理解促進のためのパンフレットの作成等の取組を行った。

多様な主体が参画する実行委員会では、価値観や重視する点の違いから、合意形成が難航することもあるが、常に共通の理念を確認しながら、多くの議論と丁寧な意識の共有を重ねてきた。こうしたプロセスを経たことで、地域が主体となって取組む機運が高まり、地元ボランティア参加型の運営体制も確立された。

一連の取組みを経て、地域資源をうまく活かすことで地域活性化が図られ、人が訪れることで地域の環境が維持・保全されるという、正のスパイラルが生まれつつある。平成28年には、第4回目のフェスが成功をおさめ、地域内外からますます注目が高まっている。

マネジメント部門



特別賞

設計部門



第32回全国都市緑化あいちフェア 会場設計

株式会社ブレック研究所・中央コンサルタンツ株式会社・
玉野総合コンサルタント株式会社共同企業体
株式会社ブレック研究所
石垣良弘・松崎淳・山下有里
中央コンサルタンツ株式会社
三浦利夫・浅野誠一・串原喜之
玉野総合コンサルタント株式会社
村上良徳・川本敦子

全国都市緑化あいちフェアは、メイン会場となる愛・地球博記念公園で、「緑のある暮らし明日を愛知から 花を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知 フェア」をテーマに、58日間にわたり開催された。

花の棚田

農作物の大生産地である愛知県として、農風景の美しさで有名な「四谷の千枚田」(新城市)をデザインモチーフに、上流から棚田の四季の移ろいを色彩で表現。

平坦で細長い形状の花壇用地に、棚田状の地形的な変化を創造することで、主園路を歩く来訪者にシークエンスの景変化を与え、地形の天場には、背の高いススキなどのグラス類を植栽し、景を区切り、花壇の背景を整え、花の美しさを感じやすい

作品概要

作品名—— 第32回全国都市緑化あいちフェア会場設計
所在地—— 愛知県長久手市表ヶ廻間乙1533-1
発注—— 第32回全国都市緑化あいちフェア実行委員会
設計—— 株式会社ブレック研究所・中央コンサルタンツ株式会社
玉野総合コンサルタント株式会社共同企業体
施工—— 岩間造園(株)、大島造園土木(株)、(株)本陣
設計期間—— (基本設計)平成26年2月～平成26年5月
(実施設計)平成26年7月～平成27年3月
(施工監理支援)平成27年6月～平成28年1月※撤去含む
施工期間—— 平成27年3月～平成27年9月
規模—— 約20ha
主要施設—— 花の棚田、あいちの庭、鏡の中の花畑、緑化壁、
デザインウォール、花しずく、フレンドシップ花壇 等

作品評

本作品は、平成27年に愛知万博10周年を記念して開催された「都市緑化あいちフェア」の会場設計であり、万博の記憶と共に、50年間花卉生産日本一の栄誉を誇る「花の王国あいち」をアピールする計画となっている。
40万株を超える花卉を地元調達で賄った点や、ストックヤードを無くして計画的な運営で花卉の供給を回った点、また様々な花種を場の表現に合わせて効果的に用いた手法などの、花卉生産という地域産業との一体的運営がうまく進められたことが評価された。また、舗装広場や人工芝の上に展開された花畑が印象的な景観を展開していた点、そしてそれを可能とした植栽基盤の工夫といった技術的内容にも評価が集まった。ただし、これらの仮設的な施設が、フェアという性格から一過性なものとなってしまった点などから特別賞となった。



①②③「花の王国あいち」を飾るダイナミックなボーダーガーデン
④⑤⑥「花の棚田」代掻き時期の水田の「青」～田植えの苗の「緑」～成長していく穂の「黄」～穂が重みを垂らせた「赤」～棚田の四季を花の色で表現。

⑦⑧花畑の景を鏡に映しどこまでも花畑が続く「鏡の中の花畑」⑨最新の壁面緑化技術を展示した「緑化壁(垂直庭園)」⑩愛知万博の思い出写真を展示した「デザインウォール」⑪愛知県の伝統工芸「有松絞り」の模倣 ⑫造園技術を活かした植栽基盤の創出による花の演出

次々と移り変わる花の景を創出。

豊富な品種と量、高品質な花卉を、きめ細かく配植することで、国内でも最大規模のボーダーガーデンを展開し、50年以上にわたり花卉生産日本一を誇る「花の王国あいち」を象徴する花壇を演出。

都市緑化フェアはイベントのため、本来仮設的な施設となる傾向があったが、完成度の高い「花の棚田」を公園施設として残すことが可能となった。

「万博の思い出」を軸とした会場の展開

あいちフェアのメイン会場は、平成17(2005)年に開催され成功を取った愛知万博の会場であった愛・地球博記念公園で、万博の「グローバル・ループ」の線形・幅員を活かす公園の主

園路に沿って5つのエリアや来訪者の目を楽しませるコンテンツを配置し、「万博の思い出」を彷彿とさせつつ、賑わいを生み出す空間構成とした。

造園技術を活かした花の景の演出

舗装面が多く、植栽基盤確保が課題であった計画地では、人工地盤上のように植栽基盤を確実に確保するため、芝付きヤシロールの土留め、土壌積みの表面にハニカム状の不織布で基盤を創出するなど、造園的な手法により修景要素としても花壇に馴染む工法を採用した。このような工法は、簡易な人工地盤上の緑化手法としても有効で、撤去時にコンクリートなどの使用量が削減でき、廃棄物を最小限に留める効果があった。

設計部門



奨励賞

北野天満宮境内整備平成の大改修 「紅梅殿別離の庭」～国宝北野緑起絵巻の再現～

設計部門



①史跡御土居を背景とした「紅梅殿別離の庭」 ②屈曲した流れ ③社殿を背景とした流れの景 ④国宝「北野緑起絵巻」-紅梅殿別離の段-

株式会社空間創研

片木孝子・宇戸陸雄・泉崇・後藤逸成・荘田隆久

樋口造園株式会社

樋口隆三・樋口貴茂

北野天満宮では、平成39年に斎行される千百二十五年半萬燈祭に向けた整備事業として平成の大改修境内整備が行われている。「紅梅殿別離の庭」では、国宝「北野緑起絵巻」-紅梅殿別離の段-に描かれる景：道真公の生家「紅梅殿」と中庭の屈曲した流れを再現し、天神信仰発祥の地として相応しい、質の高い空間づくりを目指した。

本整備では、北野天満宮の神囃所として使用される紅梅殿と呼ばれる建築物を伝統的な曳家工法により南へ約50m移築し、庭園部分は平坦地であったことから、現況地盤より1.5mの盛土造成を行っている。滝石組とそれに続く流れは、曲水宴の運営に配慮した勾配とし、植栽計画は、境内のウメと史跡御土居のモミジなど、既存樹木の移み出しによる植栽を行って、限られた空間に奥行き感と連続性を持たせた。

作品概要

作品名——北野天満宮境内整備—平成の大改修
「紅梅殿別離の庭」～国宝北野緑起絵巻の再現
所在地——京都府京都市上京区馬場町
発注——宗教法人北野天満宮
設計——株式会社空間創研
施工——樋口造園株式会社
設計期間——平成25年7月～平成27年2月
施工期間——平成27年3月～平成27年10月
事業規模——約2.0ha(整備対象全体)約2,000㎡(今回対象)

作品評

本作品は菅原道真公が「東風吹かば…」の一首を除いたとされる中産を詠いた「紅梅殿別離の段」の再現を目指したものであり、社殿の移築や「絵巻」に描かれた庭の再現といった複雑な工事を、神官や有識者といった多くの関係者と調整しながら実施した。
再現された空間は、北野天満宮の一角を成すにふさわしい空間として位置しており、歴史的庭園の再生のために積み重ねられた検討や施工上での工夫なども評価された。今後は、再現された「曲水の流れ」に関する解説や、庭園の再現といった主題に関する解説の充実などが期待され、奨励賞となった。



奨励賞

碧南レールパーク

調査・計画部門



①大浜口広場。鉄道軌道と同じ幅の2本の白線をデザインの基軸とした。実物大の軌道を復元してオブジェとして中央に配置。全体景観を奪さないミニマルな施設配置とした ②五津浦広場。狭い敷地にホームが迫る旧駅の形をそのまま活用して臨場感を持たせた ③住民意見を取り入れた枕木を使った花壇スペース。住民の花飾り活動の定着を期待している ④信号機は鉄道会社から譲り受けた。夜間はライトアップされて闇の中に幻想的に浮かび上がる ⑤住民ワークショップ ⑥模型製作による計画検討 ⑦隣接道路との高低差はコンクリート製の情報ボードとした ⑧ホーム壁面にはめ込んだ舞妓の駅名レリーフ

株式会社オオバ

小林浩浩・小柳太二・松岡史展・木村晃一・丸山昇・宮原浩史

愛知県立芸術大学 美術学部 教授 水津功

NPO 岡崎まち育てセンター・りた 三矢勝司

名古屋鉄道三河線は碧南駅以東が2004年3月に廃止され、碧南市は市内区間の遊歩道化を決断した。幅10m前後の廃線敷にはバラスト、鉄道柵、3つの駅ホームなどが残されていた。実施設計は発注者、大学教授、専門家、設計コンサルタントからなる推進チームを編成して内外の調整を進めた。沿線全世帯アンケート、住民や小学生とのワークショップを行いプライバシー確保や住戸庭先の花飾りスペース設置を実現した。地場産業の活用にも力を入れてベンチ等の主要施設に鋳物品、舗装にレンガや三州瓦廃材の活用を進めた。

2016年4月に第1期区間が供用し、地域住民に日常的に利用され、週末は多くの市民が繰り出しウォーキングなどを楽しんでいる。鉄道の歴史を身近に感じて暮らすことで、次世代にまちの歴史が引き継がれることを期待している。

作品概要

作品名——碧南レールパーク
対象地——愛知県碧南市塩浜町地内はじめ
発注——碧南市 開発水道部 公園緑地課
事業目的——廃止された名古屋鉄道三河線跡の遊歩道化。
事業体制——計画・設計業務を株式会社オオバが担当。デザイン監修を愛知県立芸術大学教授の水津功氏が、地域コミュニケーションを名古屋工業大学(当時)の三矢勝司氏が担当。
協働者等——石川建設株式会社(舗装製作技術検討)
事業期間——基本構想 2008年9月5日～2009年3月2日
実施設計 2013年9月6日～2014年3月26日
供用開始(第1期区間)2016年4月 ※2018年4月全域供用予定
事業規模——供用区間約0.5km|全線約2.3km

作品評

本作品は、鉄道廃線敷きを緑地化し、土地の配役として残した好例である。地方で、このように廃線敷きを活用している事例は少なく、エリアマネジメントとしても好例である。様々なワークショップの運営やアンケートの実施、遊歩道や地場産業の活用、多形で多様な関係者による業務推進体制の構築、などのマネジメント部分は大いに評価すべき点である。
個々のディテールや空間デザインに、工夫や配役としての配慮が感じられる。今後は本線道が定着し、線路によって分断されていた街並みがどのように一体化されてゆか、といった沿線土地利用との関係性や親和性についての拡充が期待され、奨励賞となった。

CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA賞選考委員長 阿部 伸太

CLA賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが行った仕事をプロが評価し、表彰するというシステムに特徴があります。同時に、応募者は自己が実施した業務の成果について、改めて応募資料という形に取りまとめることにより、個々の業務の再チェック、すなわち自己研鑽と品質保証の一翼を担うという面からも意義あるものと考えております。

さて、今年度は従来の年度末という業務集中時に作品募集を行うのではなく、5月末の総会時に募集を発表し、7月末を期限として作品募集を行いました。その結果「設計」「調査・計画」「マネジメント」という3分野で、10社から12作品の応募となり、昨年度より僅かに増えたという結果となりました。応募者からは、時間的余裕をもって応募資料の作成が出来たといった意見も聞かれ、募集期間を見直した成果はあったと考えて良さそうです。応募くださった皆様に厚く御礼申し上げるとともに、会員各社ならびに技術者皆様のより一層の社会への貢献を期待いたします。

今年度応募された作品は、選出された作品もそうですが、非常に多様な領域からの作品が多く、ランドスケープの領域がますます拡大していることをあらためて実感しました。各委員は、事前に配布された応募作品の資料に対して募集要綱に示された5つの視点(①独創性・新規性、②社会的課題解決力、③市民・ユーザー評価、④プレゼンテーション力、⑤ランドスケープ職能への貢献度)から評点を付け、選考会当日に集計しました。

選考会では、こうした集計結果を参考として、改めて作品毎に賞を付すにふさわしい作品か否かについて討議し、8作品が検討対象として残りました。次に、ランドスケープの新領域を広げる作品、新技術や新しい提案等の視点から、再度対象作品を検討しましたが、先の8作品以外に新たに追加されるものはありませんでした。最後に、この8作品について検討し、優秀賞4作品、特別賞1作品、奨励賞2作品を選出いたしました。選考委員全員で議論した結果、最優秀賞は該当なしとなりました。

どの作品もプロジェクトに対して真摯に取り組み、都市問題、地域問題を解決すべく手法としてのランドスケーププランニング、デザイン、マネージメントが展開されており、そうしたコンセプトやプロセスに係わる部分が、丁寧に、かつ解りやすく

表現されたものが高く評価されました。特に、問題解決に向けた工夫について、具体的かつ解り易く解説しているプレゼンテーションが評価されました。一方、写真構成を強調している資料も多く見られましたが、同時に十分な解説も求められ、これを満足しているものが選ばれました。

社会に対してランドスケープという職能を如何にアピールするかが今日の造園界にとって大きな命題です。それぞれのプロジェクトが求める課題解決を丁寧に行っていくことはこれまでと変わりはありませんが、多様な分野とのコラボレーションやこれまではない分野や発想とのイノベーション、そして、より多くの人びとの共感と関心を引き込むアウトプットを世に送り出し続けることが重要であると考えます。CLA賞はそうした意味からも、単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントの様々な技術力向上に繋がることともに、社会へアピールする材料として活用されることも含め、会員企業や技術者の皆様の糧になることを願って、選考結果のご報告といたします。

作品の応募と選考結果

部門	応募	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設計	12点	該当なし	3点	1点	1点
調査・計画	2点	該当なし	該当なし	該当なし	1点
マネジメント	2点	該当なし	1点	該当なし	該当なし
計	16点	該当なし	4点	1点	2点

選考委員

委員長	阿部 伸太	東京農業大学 准教授
副委員長	内藤 英四郎	CLA 専務理事
委員	石井 ちはる	CLA 広報委員長
委員	入江 彰昭	東京農業短期大学 准教授
委員	卯之原 昇	(一社)日本造園建設業協会 技術委員長
委員	篠沢 健太	工学院大学 教授
委員	霊山 明夫	(一社)日本公園緑地協会 常務理事
委員	萩野 一彦	CLA 技術委員長
委員	町田 誠	国土交通省都市局 公園緑地・景観課 課長

2016年 CLA賞 受賞技術者プロフィール

大杉哲哉 (おおすぎてつや)

1958年広島生まれ。1982年東京農業大学造園学科、株式会社アーバンデザインコンサルタンツ入社。公園計画設計、文化財整備、まちなみ環境整備、道路修景設計、土地区画整理事業等の多様な業務に携わる。ワークショップを活用した住民参加に多くの実績を持っている。現在代表取締役社長。技術士(建設部門)。RCCM(道路部門)。

堤八恵子 (つみやえこ)

1978年九州芸術工科大学環境設計学科卒業。大型量販店・区画整理経験後、1985年株式会社アーバンデザインコンサルタンツ入社。造園設計、景観、広告物やまちづくりの調査設計を経て、現在代表取締役会長。「幸せ思考」をモットーに、都市・地域・NPO・企業等のマネジメント支援を行っている。技術士(建設部門・総合技術監理部門)。

扇輝久 (おおぎてるひさ)

1971年福岡生まれ。1996年九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科博士課程前期課程生活環境専攻修了。2013年あひ環境設計研究所を設立。ランドスケープデザインを中心に文化財・建築・まちづくり・グラフィックなど様々なデザイン活動に従事。九州大学非常勤講師。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

小峯裕 (こみやゆたか)

福岡県生まれ。1997年山口大学工学部社会工学科卒業。株式会社アーバンデザインコンサルタンツに入社後、文化財計画や住民参加、協働のまちづくりの支援、に携わる。住民の声やアイデアを実現していくために、利用者の笑顔を求め続けている。

棚町修一 (たなまちしゅういち)

1955年福岡生まれ。1978年九州芸術工科大学環境設計学科卒業。公園緑地計画・設計・監理、文化財関連の計画・設計に携わる。近年は、主に文化財の保存・活用計画を通じて、魅力あるまちづくりに取り組んでいる。技術士(建設部門・総合技術監理部門)、一級建築士。

山野秀規 (やまのひでき)

1972年神奈川県生まれ。1994年明治大学農学部卒業。同年、樹愛植物設計事務所入社。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。近年の主な担当業務として、ダイキン工業アレス青谷植栽計画、豊洲SKYZ・BAYZ植栽計画、TRI-7六本木ランドスケープ設計、などに携わる。

山本紀久 (やまのりのひさ)

1940年生まれ。東京農業大学卒業。1973年樹愛植物設計事務所を設立。風土を表す「植物」を中心に、そこに関わる「生物」を含めた「生命体」に関する知識と体験を基軸にした「いきものランドスケープとマネージメント技術」の習得をめざす。また、土地の様相を見極めるための現場を重視し、調査～計画～設計～生産～施工～管理の「一貫性」を追求している。

丸山英幸 (まるやまひでゆき)

1957年生まれ。1980年東京農業大学農学部造園学科卒業。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、RCCM(土木)、CLA関東支部代表幹事。代表作として、愛宕グリーンヒルズランドスケープ設計監理、六本木ヒルズ住宅棟屋上庭園設計監理、杉並区立柏の宮公園茶室設計監理、など。

中井理佐子 (なかいりさこ)

東京都出身。東京農業大学短期大学部農学科卒業。2008年樹愛植物設計事務所入社。一級造園施工管理技士。近年の主な担当業務は、長野県立こころの医療センター駒ヶ根植栽設計、都立松沢病院植栽管理指導業務、パークシティ浜田山植栽管理指導業務など。※2016年8月逝去

渡邊幸太 (わたなべこうた)

1988年東京都練馬区生まれ。2013年千葉大学大学院園芸学研究所修了。同年、株式会社樹愛植物設計事務所入社。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。近年の主な担当業務として、石巻南浜津波復興祈念公園基本計画・基本設計、パークコート渋谷大山町植栽計画など。

田中秀樹 (たなかひでき)

1990年愛知県出身。2014年日本大学大学院生物資源科学研究科卒業後、樹愛植物設計事務所入社。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。主な担当業務は、玉川上水緑道実施設計、上高地園地歩道実施設計など。

倉田香織 (くらたかおり)

神奈川県出身。文化服装学院ファッション情報科卒業、(尚)成城スタジオなどを経て、2016年樹愛植物設計事務所入社。現在は、いろいろな植栽管理の指導業務のほか、国外ランドスケープ業務のサポートなどを担当している。

北川明介 (きたがわあきすけ)

1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。樹愛植物設計事務所代表取締役。市街地内の既存緑空間の活用や再生プロジェクトに多数関わっている。

井野貴文 (いのたかふみ)

群馬県高崎市出身。2009年東京農業大学造園学科、東京工科大学建築科同年卒業。樹愛植物設計事務所入社後は主に公園緑地の設計に従事。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

岸井悠子 (きしいゆうこ)

2005年東京農業大学造園学科卒業。同年、樹愛植物設計事務所入社。商業施設のランドスケープデザインや臨海緑地のランドスケープ、住宅の緑のデザイン等を担当。土地の魅力をひきだし、地域の人々に愛され続けるランドスケープデザインを目指しています。

谷彩音 (たにあやね)

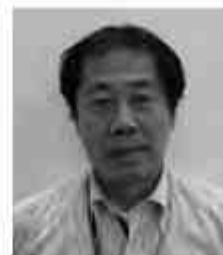
2010年入社後、みどりの保全や地域活性化等の計画立案・取組み支援に従事。市民、行政、企業など様々な立場をつなぐインタープリターとして、住民参加のまちづくりや住民主体のアクション実施を支援してきた。「地域活性化の主役は地域の皆さん。黒子としていかに地域を盛り上げて、美しく去るかを追求しています。」

千田雅明 (ちだまさあき)



1987年入社後、住民主体のまちづくりや景観づくりなど地域活性化の取組みに従事。東日本大震災の復興支援の後、フィリピンヨランダ台風災害やネパール地震復旧・復興プロジェクトなど海外の地域づくりにも従事。日本でも海外でもそこに住まう方々の思いを一緒になって実現していく仕事にやりがいを感じています。

小野崎研郎 (おのさきけんろう)



環境分野のまちづくりから派生し、市民による地域づくりの計画や実践事業や、事業者側のPI事業等の支援に従事。地域応援団と自称し、プライベートで関わるスポーツ・福祉・まちづくり関連のNPO活動の経験を活かし、官民連携や市民主体のまちづくりを支援。

松延 穰 (まつのぶゆずる)



1993年千葉大学造園学科卒業。同年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社。主に緑地計画や公園の調査・計画・運営支援、地域資源を活かした観光まちづくりの業務に従事。「地域のこだわり」を大事にしています。

千葉清護 (ちばせいご)



1997年入社後、主に、地域振興関連業務に従事。地域資源を生かした賑わい創出や都市と農村の連携、環境保全などの計画策定業務を支援してきた。「『こっそり地域の役に立つことに関わること』を心がけて活動しています。」

荘田隆久 (しょうだたかひさ)



1972年大阪生まれ。1994年京都嵯峨美術短期大学環境デザイン学科卒業。㈱都市環境ランドスケープを経て、2012年(株)空間創研入社。主に、集合住宅から商業や医療、教育施設など、多岐にわたる屋外空間の計画・設計・監理に携わる。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、RCCM(造園)。CLA関西支部幹事兼CLA関西支部広報委員長。

小林高浩 (こばやしたかひろ)



1986年3月信州大学農学部卒。㈱阪沼コンサルタンツを経て㈱オオバ名古屋支店勤務。緑の空間を舞台に、調査・計画・設計から管理運営まで「人も生きものも居心地の良い場所づくり」に取り組んでいる。代表作 愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」、中部国際空港セントレア植栽設計、戸田川緑地、東山植物園「桜の回廊」など。技術士、RLA、公園管理運営士。

小柳太二 (こやなぎたいじ)



愛知県出身。1994年㈱オオバ入社。名古屋支店まちづくり計画部所属。都市及び地域のまちづくり構想計画、防災・減災計画、公園や駅前広場の計画設計など幅広く従事。地域の地形や歴史を読み解いてまちづくりを行うことが目標。技術士(都市及び地方計画)。趣味はビールを飲みながらの音楽鑑賞(ビートルズやナイアガラ)。

松岡史展 (まつおかふみひろ)



2003年3月に北海道大学大学院農学研究科を卒業。その後、㈱阪沼コンサルタンツに入社し、2009年より㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主に公園緑地の計画・設計、ワークショップを担当。近年は国営木曾三川公園の自然体験イベント「エコパラクラブ」にも参加している。技術士(都市及び地方計画)、RLA。

石垣良弘 (いしがきよしひろ)



1988年武蔵工業大学工学部建築学科卒業。1989年(株)プレック研究所入社。執行役員(歴史・文化部門統括部長兼務)。ランドスケープの計画・設計、文化財の保存活用に係る計画などに従事。技術士(建設部門・都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

松崎 淳 (まつさきあつし)



1968年広島県比婆郡東城町生まれ。1992年大阪大学工学部環境工学科卒業。同年(株)プレック研究所入社。東京、横浜、福岡の事務所を経て、現在中部事務所。動物園や遊び場、ピジターセンターなどの建築、展示、ランドスケープの設計に従事。技術士(建設部門・都市及び地方計画)。

山下有里 (やましたゆり)



1968年長野県生まれ。1991年筑波大学第二学群農林学類卒業。同年(株)プレック研究所入社。東京本社での勤務を経て、2000年より中部事務所勤務。水環境、土壌環境等生物の生育・生息基盤環境や生態系の調査及び各種計画策定、公園の運営管理等の業務に従事。技術士(環境部門・自然環境保全、建設部門・建設環境、都市及び地方計画)。

三浦利夫 (みうらとしお)



1959年名古屋生まれ。三重大学大学院生物資源学研究所(学術博士)。1982年、中央コンサルタンツ株式会社入社。公園や里山、まちづくり計画に従事。最近、技術営業で緑の重要性をPRしつつ、委員会・公園指定管理・プロポーザル業務を担当。技術士(建設部門・都市及び地方計画)、樹木医。

木村晃一 (きむらこういち)



1973年愛知県生まれ。中部大学建築学科卒業後、建築設計・不動産開発を経て、2009年㈱オオバ名古屋支店に入社。主な業務分野は、公園・建築の基本構想～実施設計などハード整備計画業務およびワークショップや維持管理計画策定などのソフト関連業務。趣味はまちあるき(公園・建築見学、NPO活動)と溪流釣り(お昼寝)。

丸山昇 (まるやまのぼる)



1963年愛知県生まれ。技術士(都市及び地方計画・建設環境)。2012年より㈱オオバ名古屋支店まちづくり部。まちづくりの事なら(ほぼ)何でもやる(つもり)で日々精進しています。趣味は映画とビールと登山など。

宮原啓史 (みやはらひろふみ)



国立豊田工業高等専門学校土木工学科を卒業。その後、㈱八千代エンジニアリングに入社し、2009年より㈱オオバ名古屋支店設計部道路構造課に勤務。主に橋梁及び構造物の計画・設計。建築土木の複合構造物である豊田市総合体育館連絡通路橋、中部国際空港連絡MAT通路橋の設計を担当。

水津功 (すいづいさお)



山口県出身。1988年東京藝術大学大学院修了。清水建設(株)設計本部を経てwatermarkdesign設立。現在、愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻環境デザイン領域教授。専門は環境デザイン、ランドスケープ、市民景観。針葉樹を主燃料に出来る薪ストーブのデザイン開発で2016年グッドデザイン特別賞。

浅野誠一 (あさのせいいち)



1968年名古屋生まれ。1991年宇都宮大学農業開発工学科卒業。中央コンサルタンツ株式会社入社。主として公園緑地の計画設計、関連する委員会、ワークショップに従事。より多くの人々に利用され、楽しんでもらえる公園づくりを心がけています。技術士(建設部門・都市及び地方計画、建設環境)、公園管理運営士。

申原喜之 (くしはらよしゆき)



1981年長野県生まれ。2005年名古屋工業大学社会開発工学科卒業。中央コンサルタンツ株式会社入社。公園緑地の計画・設計からパークマネジメント検討業務等に従事。最近では、時代とともに老朽化・陳腐化した身近な公園である街区公園を再生させ、再び地域コミュニティの中心となるような計画に取り組んでいます。技術士(建設部門・都市及び地方計画、建設環境)、公園施設点検管理士。

村上良徳 (むらかみよしのり)



1961年静岡市生まれ。1983年東京農業大学農学部造園学科卒業。同年玉野総合コンサルタント株式会社に入社。ランドスケープの計画・設計・ワークショップに従事。愛知万博協会にも出向。RLA、自然再生士。

川本敦子 (かわもとあつこ)



1969年愛知県生まれ。1992年駒澤大学文学部歴史学科卒業。同年玉野総合コンサルタント株式会社に入社。ランドスケープの計画・設計・ワークショップ、樹木管理、地域住民向けのイベントの企画・運営等を担当。RCCM(造園)、自然再生士。

三矢勝司 (みつやかつし)



岡崎市出身。千葉大大学院でコミュニティデザインを学ぶ。2006年にNPO岡崎まち育てセンター・りた設立、事務局局長を務めた(国土交通大臣賞受賞)。名工大コミュニティ創成教育研究センター・特任助教(2012～14)を経て、2015年りたに復帰。専門は、参加のデザイン、まちづくり支援論。博士(工学)。

片木孝子 (かたぎたかこ)



1974年東京都生まれ。1997年昭和女子大学卒業。1999年東京農業大学大学院農学研究科修了。2001年(株)空間創研入社。主に、公園計画・設計のほか、文化財に関する委員会運営及び造園設計などを担当。風土を活かした環境づくりと、地域と調和した「居心地の良い」空間づくりを目指す。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

宇戸陸雄 (うどむつお)



1960年京都市生まれ。京都芸術短期大学卒業。㈱空間創研代表取締役。登録ランドスケープアーキテクト、技術士(総合技術監理部門)、樹木医。「空間(ものとの間)」にこだわり、調査、計画、設計に従事。空気のように目立たず、かといってなくては困る空間づくりを目指しています。

泉 崇 (いずみたかし)



1997年金沢美術工芸大学卒業。同年、㈱空間創研入社。公園緑地の実施設計を主体に、植物発生の利活用や草地管理の調査・研究など様々な業務に携わる。「場」の特性を見つめ、時間の経過とともに心地よく魅力的な場となる「場づくり」を目標に仕事に取り組んでいる。

後藤逸成 (ごとういつなり)



1973年愛知県生まれ。名古屋造形芸術短期大学造形芸術学科ランドスケープデザインコース卒業。1995年株式会社空間創研入社。主に都市公園・緑地などの計画から実施設計及び緑化イベントの計画から運営に携わり、日々、快適な空間づくりを目標とする。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、RCCM(造園)。

都市公園再生プロジェクト

“身近な公園の再生”と“ランドスケープによるふるさとの防災と地域再生”の提案

プロジェクトの背景と経緯

全国で約10万箇所を超える都市公園のうち、設置から30年以上経過した公園が今後20年後には6割に達する見込みであり、公園の老朽化による安全面と地域イメージの低下などの弊害が懸念されています。

また、私たちを取り巻く少子高齢化と人口減少の進行、災害への備えと被災地の復興におけるまちづくりなどの様々な社会環境の変化により、都市公園に求められる役割や機能も多様化しており、市民・社会のニーズからの乖離による利用の低下や維持管理・補修予算の減少も深刻な課題となっています。このような社会的動向を踏まえた都市公園のあり方や具体的なイメージにもとづいた効果的な都市公園像の提示が求められています。

そこで、ランドスケープコンサルタントが地方公共団体等に対して積極的な支援を行う際のツールとして活用できるよう、CLA 関東支部会員を構成メンバーとして立ち上げた「都市公園再生プロジェクト研究会」及び学識者等で構成された「都市公園再生プロジェクト検討委員会」では、“コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園の再生のあり方”と“東日本大震災の復興における提案を通じた新しい公園のあり方”の2つのテーマを設定し、プロポーザルで選出された会員企業の「作

業チーム」が具体的な検討を行いました。その結果が“身近な公園の再生”と“ランドスケープによるふるさとの防災と地域再生”の提案としてまとめられました。現在、その提案を活用した取組みが始動しつつあり、各方面での今後の展開が期待されています。

「身近な公園の再生」プロジェクト

～公的不動産のマネジメントとしての公園再生～

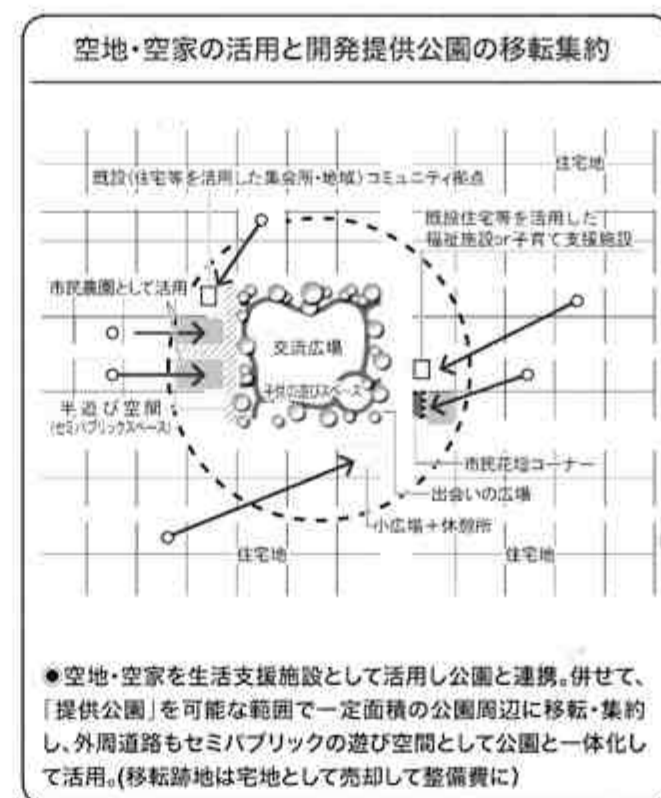
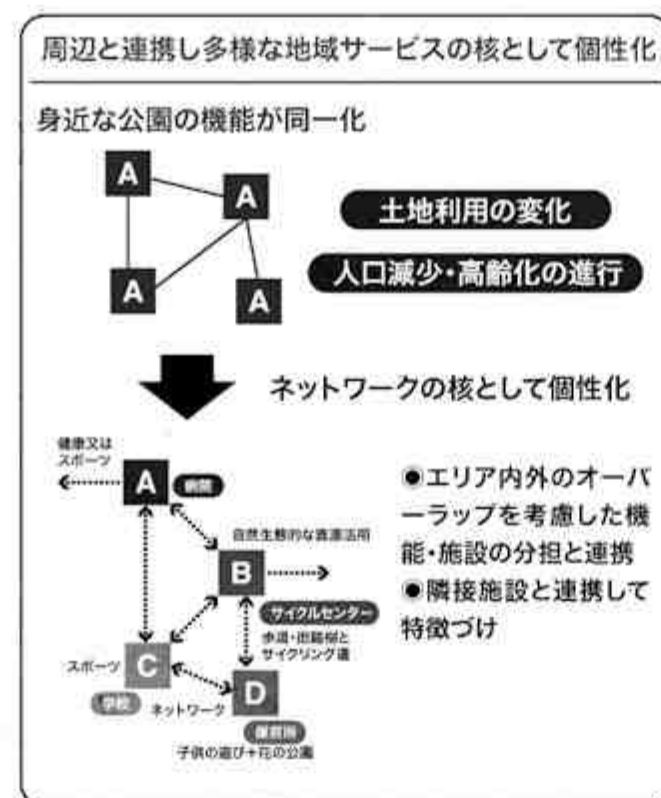
身近な公園が抱える様々な課題の解決に向けて公園再生を進めるために、公的不動産をマネジメントするという着眼点で次のような方法を提案しています。

◎コンパクトシティ化（都市機能の集約・移転）に即した

再生市街地での再生イメージ

市街地では、“都市機能の集積に伴う機能変更”、“周辺との一体化による再生”という都市公園の方向性を提案し、①高齢化と子育て支援への対応として、都市公園と医療・福祉等の機能を一体化することにより、安心安全な住空間を創出、②都市機能の集積と一体の再生立体都市公園制度を活用、③市街地の多様な水と緑と連携して、隣接施設等と一体にぎわい空間を形成、④生産緑地を市民農園として活用し、身近に土と触れ合える環境を公園と一体で形成といった具体的なイメージを提示しています。

地域戦略に貢献する公園再生のポイント



◎都市縁辺部での再生イメージ

都市縁辺部では、“居住密度低下に対応した地域の核の形成”という都市公園の方向性を提案し、①公園と隣接する小規模民有林等を一体化して保全活用、②「小さな拠点」づくり：廃校や道の駅等と一体で生活サービスを集約、③子育て層・シニア層を狙った「農地」と「住宅」との連携といった具体的なイメージを提示しています。

◎地域戦略に貢献する公園再生のポイント

ニーズの変化や地域戦略に合わせた公園機能の分散と集約を考慮することが地域の計画的な戦略に貢献するポイントになると考え、①周辺と連携し多様な地域サービスの核として個性化を図る、②空地・空家の活用と開発提供公園の移転集約という方法を提案しています。

「ランドスケープによるふるさとの防災と地域再生」プロジェクト

東日本大震災の復興における新しい公園のあり方について、次のようなコモンズパークの考え方を打ち出しています。

◎津波防災のためのグリーンインフラを実現する

“コモンズパーク”の提案

コモンズパークは都市公園をベースとし、ランドスケープがまちづくりを先導することにより、低平地における「美しいふるさとの風景の再生」、「グリーンインフラの形成」、「6次産業化と市民協働によるまちの再生」を一体的に推進し、実現を目指す空間です。地域の再生へ向けて、魅力づくりと活性化を図るための土地利用とゆとりある施設を計画し、東日本大震災の復興整備及び、各地での災害想定における復興計画での適用も考えられます。

◎今後のコンパクトシティ化にも対応できるコモンズパーク

コモンズパークの推進は、被災地の復興事業にとどまらず、同様の課題が生じると考えられる全国で取組まれるコンパクト

シティ化に伴う居住調整地域においても解決にもなりえると考えます。居住調整地域では、防災・減災のためのグリーンインフラとしての機能とともに、郊外市街地の田園的再生に寄与するコモンズパークの整備による課題解決が期待されます。

以上のプロジェクトの提案内容には、公園やまちづくりにおける様々な課題を解決する方法が盛り込まれており、また、都市公園のみならず、公共施設、民間緑地、公開空地などの多様なオープンスペースの魅力と価値の向上や、地域資源の有効活用などに取組む上で参考となる提案となっています。提案の内容については、次頁以降に概要をまとめたパンフレットを掲載しましたので、ぜひご覧ください。

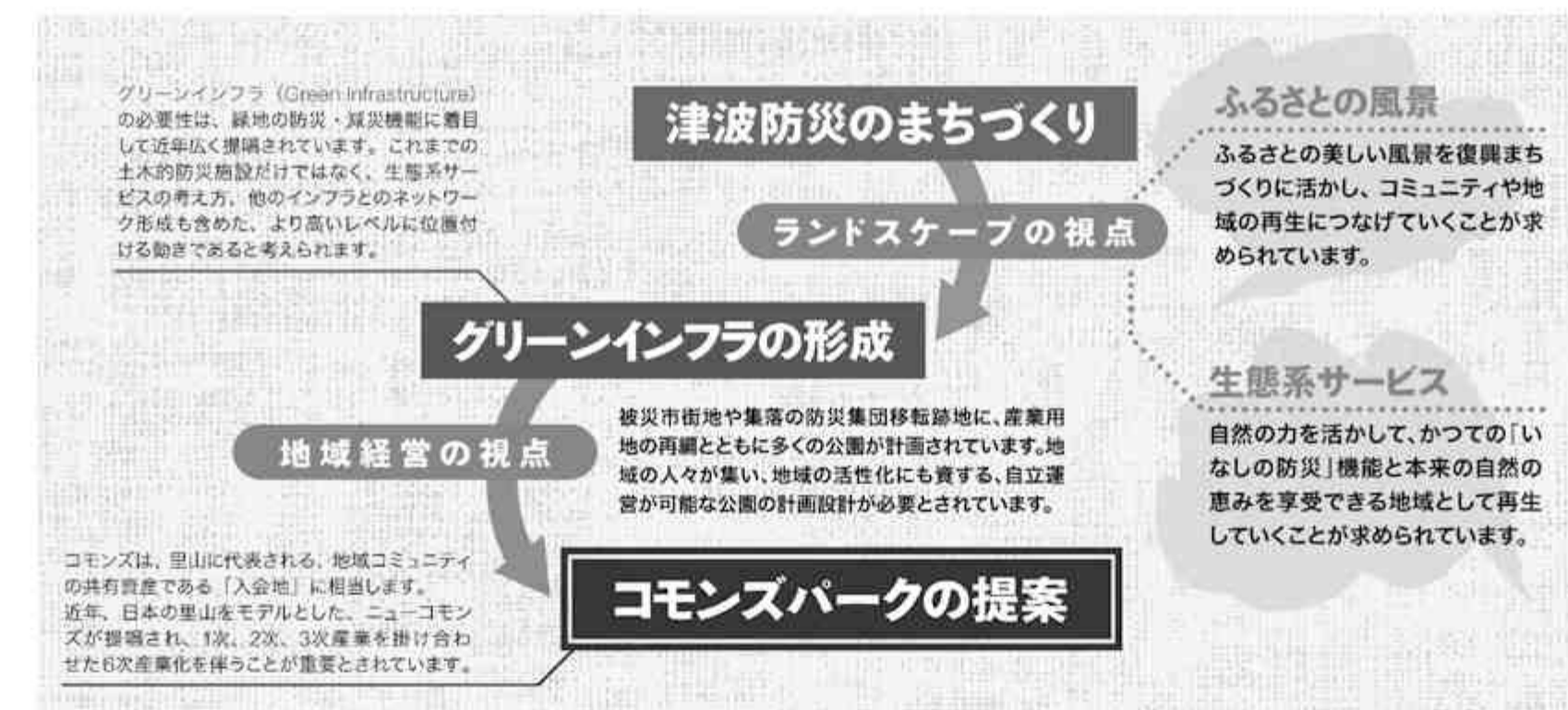
尚、プロジェクトに関連するご相談及びご質問は、下記にお問い合わせ下さい。

文引用・図出典：
「身近な公園の再生」・「ランドスケープによるふるさとの防災と地域再生」パンフレット
((一社)ランドスケープコンサルタンツ協会)
「みどりの手帖 Vol.16」
((一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部)

*パンフレット(カラー刷り)は、下記で配布しています。

お問合せ先：(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
事務局
TEL 03-3662-8266
e-mail info@cla.or.jp

津波防災のためのグリーンインフラを実現する“コモンズパーク”の提案



地域戦略に貢献する公園再生のポイント

中心市街地の活性化/防災力強化/子育て支援/高齢者が生き生きと暮らせるまちづくり等—地域目標に即した再生の重点設定と個性の伸長

ニーズ変化や地域戦略に合わせた機能分散と集約

周辺の連携し多様な地域サービスの核として個性化

身近な公園の機能が同一化

土地利用の変化

ネットワークの核として個性化

都市の強靭化への貢献

災害時の避難を考慮し、街路と公園がシームレスにつながる一定の防災機能を確保する工夫

重点を吟味し低コストで効果を高める…再配置/縮小も

「公園施設長寿命化計画」を活用

資産価値の向上

環境価値の向上

「コンパクトなまちづくりへの対応」

【地域戦略に有効な土地利用】

「公園を街の「緑」に」

例えば、こんな空間に……

CLA 一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

今後のコンパクトシティ化にも対応できるコモンスパーク

コモンスパークの提案は、被災地の復興事業にとどまらず、今後、全国で取り込まれるコンパクトシティ化に伴う居住調整地域においても同様の課題が生じ、その解決策になりえるものです。

「ランドスケープ・フィニッシュ」によって防災・減災のためのグリーンインフラとしての機能とともに、都市市街地の田舎再生に寄与するコモンスパークを提案することが考えられます。

津波防災のまちづくり

ふるさとの風景

生きたサービス

コモンスパークの提案

CLA 一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

コンパクトシティ化(都市機能の集約・移転)に即した再生イメージ例

市街地 (都市機能の集積に伴う機能変更・周辺との一体化)

都市縁辺部 (居住密度低下に対応した地域の核の形成)

1 医療、福祉等の機能と一体で安心快適な空間を創出

2 市街地の多様な水や緑と連携

3 生産緑地を市民農園として活用

4 公園と隣接する小規模民有林等を一体化して健全活用

5 校舎等を医療福祉・生活支援施設として活用

6 子育て層・シニア層を惹いた「農地」と「住宅」の連携

「小さな拠点」づくり

「公園を街の「緑」に」

「津波防災のためのグリーンインフラを実現する「コモンスパーク」」の提案

1 土地の記憶をつむぐ美しいふるさとのパーク

2 グリーンインフラとしてのパーク

3 6次産業と市民協働を育てるパーク

4 高台へのわかりやすい避難ルート

5 コミュニティ・ランドスケープ

6 校舎等を医療福祉・生活支援施設として活用

支部活動報告

北海道支部

■支部連絡会議の開催 平成27年7月31日-8月1日

当支部が幹事となり、「北海道ガーデンショー2015大雪」の開催に合わせて旭川市で開催。参加者は22名。

一日目は、15時にJR旭川駅に集合。「あさひかわ北彩都ガーデン」の見学、情報交換会、交流会を行った。

二日目は、8時20分JR旭川駅出発、ガーデンショー会場の「大雪森のガーデン」(上川町内)と「上野ファーム」(旭川市内)を見学し、15時半にJR旭川駅で解散。



①旭川北彩都ガーデン ②情報交換会 ③大雪森のガーデン ④上野ファーム

■ランドスケープセッション2015を共催 8月7日

日本造園学会北海道支部との共催で開催、テーマは「ふりかえりのランドスケープ」。

札幌市内の都市景観賞を受賞したランドスケープ作品について、当協会支部技術委員会より、受賞当時の写真と同じアングルで撮影した現在の写真を比較紹介し、今後に向けての示唆となる課題、評価されるべき事項などについて考察した。



■日本造園学会北海道支部大会を共催

10月3-4日

日本造園学会北海道支部大会に共催として参加。テーマは、「公園の再生を考える」

3日に、研究・事例口頭発表、研究・事例ポスター発表、シンポジウム、北の造園遺産ポスター展示を行い、4日に北の造園遺産候補を巡る見学会を行った。

■北海道緑化樹情報連絡会議 10月9日

事務局：北海道立総合研究機構林業試験場

◎平成28年4月4日 札幌市建設局みどりの推進部造園担当課長より狭小公園の積算方法について依頼あり。4月11日に支部案として提出。

◎6月21日 平成28・29年度の新体制による第一回幹事会開催

高野ランドスケープ村田氏による平成28年度日本造園学会賞受賞の報告会、懇親会を行う。

◎6月29日 北海道文化賞に高野ランドスケープの高野文章氏を支部として推薦書提出

◎6月29日 緑化関係団体連絡協議会 幹事会議

◎7月31日 造園懇話会 平成28年度「現場視察見学会」開催

- ・「恵み野オープンガーデン」(恵庭市恵み野)
- ・「ノーザンホースパーク」(苫小牧市美沢)
- ・「えこりん村」(恵庭市牧場)



◎今後の予定

◎10月1日 日本造園学会北海道支部大会を共催。テーマは「インバウンド観光と北海道の公園：外国人旅行者への対応と魅力ある管理運営」

◎10月21日 造園学会北海道支部との連携事業 平成28年度「ふりかえりのランドスケープ」今年は札幌市公園リフレッシュ事業の振り返りを予定。

◎GIH (NPO ガーデンアイランド北海道) 及び北海道造園建設業協会との共催事業

- GIH ミーティング in オホーツク (11月予定)
- ガーデニングスキルアップセミナー (平成29年3月予定)

支部活動報告

東北支部

■東北支部通常総会開催

平成28年4月22日、仙台ビジネスホテルにおいて平成28年度東北支部通常総会を開催した。

H28、H29年度の役員及び会員は以下のとおりです。

役職	所属会社	氏名
支部長	株式会社 藤原設計	板垣清美
副支部長	パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	佐藤勝幸
代表幹事	大日本コンサルタント(株) 東北支社	菊竹直起
監事	株式会社 藤原建設技術コンサルタント	仲村明信
賛助会員	小岩金網(株) 東北支店	小林人士
	太陽工業(株) 東北営業所	丸山幸敏
	テック大洋工業(株) 東北営業所	小俣智裕
	長谷川川体育施設(株) 東北支店	中野仁志
	株式会社 中村製作所 仙台営業所	清水 充

以上9社と少ない会員ですが、少数精鋭主義で頑張っています。

今後、復興関連では福島の実情を中心として、又現実的な限界集落と景観の関連などを中心とした活動を計画している。

■平成28年度平泉町世界遺産推進協議会参加

「平泉の文化遺産」を後世に遺し伝えていく活動をしている推進協議会に参加しました。

「平泉世界遺産の日」シンポジウム

日時 平成28年6月25日(土)

場所 中尊寺本堂

テーマ 「科学は平和への公共財」名古屋大学名誉教授



■市民提案型まちづくり事業参加

日本の里100選マタギの里、根子集落において国重要無形民俗文化財に指定されている根子番楽特別公演を中心としたまちづくり事業に参加します。

日時 平成28年10月16日

場所 北秋田市根子



■日本造園学会東北支部大会後援

「東日本大震災からの復興とランドスケープが果たした役割と東北の未来の課題」

日本造園学会東北支部が主催するシンポジウムを後援します。

日時 平成28年10月22日-23日

場所 東北大学災害科学国際研究

■復興支援事業研修会

福島における復興サービス及び研修会の開催

日時 平成29年3月

場所 未定

上半期は、なかなか活動ができない状態です。下半期の活動への参加を期待しています。

■関西支部総会及び講演会の開催

平成28年4月27日(水)大阪府立労働センターにおいて通常支部総会が開催され、平成27年度事業活動と収支決算の報告、平成28年度の事業計画案および収支予算案の説明があり、さらに役員改選に伴う新役員選出について、満場一致で承認されました。

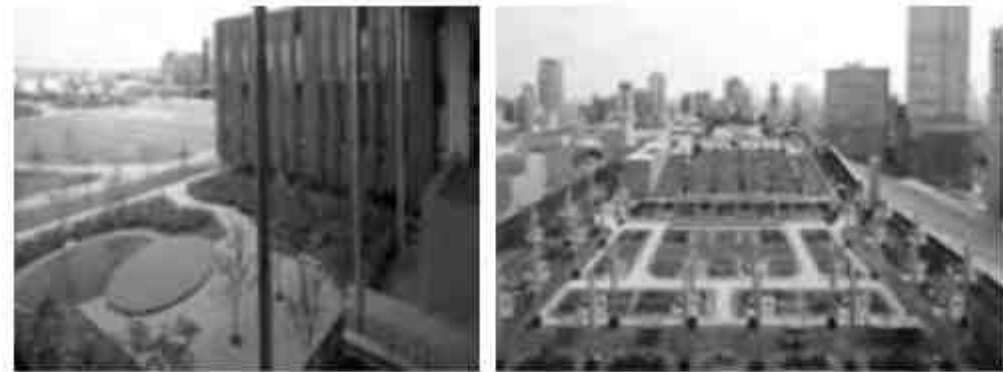
支部総会終了後、会員向けの記念講演会「成業型社会におけるランドスケープ領域のあり方」講師：増田昇先生(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)を開催しました。増田先生からは、①改革の動向とみどりに求められる役割 ②都市の持続的発展を支えるグリーンインフラの構築 ③新たなランドスケープの取り組みの可能性 ④行動の基本的考え方についてご講演頂きました。



■第6回みどりのまちづくり賞の実施

大阪府と(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との共催で、今年で6回目となる賞の実施を行っています。

7月から募集を開始し、今年度はランドスケープデザイン部門に17作品、ランドスケープマネジメント部門に20活動の応募があり、11月には表彰式・講評会・記念講演会の開催を予定しています。



2015デザイン部門 大阪府知事賞 立命館大学および岩倉公園

2015マネジメント部門 CLA関西支部長賞 大阪ステーションシティ

関西支部

■街角サロン：庭園見学会の開催

6月にJLAUとの共催で、庭園文化セミナー「重森三玲の美学」を開催しました。(有)重森庭園設計研究室の重森千青氏より秘蔵の写真などを交えてお話を伺うとともに、東福寺本坊庭園、龍吟庵庭園を見学させて頂きました。今年度は、あと1回の開催を予定しています。



■技術講習会の開催

支部会員の中で経験豊富な方々に様々な視点から講演をいただき、業界全体のノウハウとして広く若世代へ技術・技能の継承をはかることを目的として、技術講習会を開催することになりました。今年度は10月から1月にかけて3回開催する予定です。今後は本部や各支部との連携も模索していきたいと考えています。

■大阪都市緑化フェア2016in万博への参画

10月22・23日に日本万国博覧会記念公園にて開催されるフェアへ共催者および出展者として参画します。

魅力あるランドスケープの写真を多数展示し、我々の職能をPRする予定です。

■ランドスケープカンサイの発行

継続的に発行している広報紙「ランドスケープカンサイ」の112号から114号を発行する予定です。

ここに記載した活動のほか、関西で開催されるランドスケープに関する情報を掲載し、ホームページと共に支部活動を積極的にPRしています。

九州支部

■「第9回九州ランドスケープセミナー」を開催

平成28年2月3日に(公財)日本造園学会九州支部、(一社)ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)の共催で「第9回九州ランドスケープセミナー」を開催しました。今回は、「水辺空間を活かしたまちづくり～博多港ウォーターフロント・那珂川とランドスケープ～」をテーマに、龍増則氏(福岡市港湾局計画部長)、柴田久氏(福岡大学工学部教授)、田中尚人氏(熊本大学政策創造研究教育センター准教授)、西川真水氏(西日本短大緑地環境学科准教授)から話題提供をいただいた後、CLA九州支部長の司会で参加者と意見交換を行いました。行政、学生、コンサルタント、造園関連業界から110名を超える参加がありました。意見交換では、平成26年度の日本造園学会学生アイデアコンペの作品の紹介を含め、水辺空間をランドスケープに活かすか熱心な議論が行われました。

なお、本セミナーは、(公財)福岡市緑のまちづくり協会、(一財)日本造園修景協会福岡県支部、(一社)日本樹木医協会福岡支部、(公社)福岡県造園協会の後援をいただきました。



■福博花しるべ「ガーデニングショー」への出展・後援

福岡市が主催する天神と博多を花で結ぶイベント「福博花しるべ・ガーデニングショー」を後援するとともに、企画会議出席及び花壇出展を行いました。

ガーデニングショーは、平成27年4月4日(金)～4月12日(日)の9日間、天神の中心部に位置する警固公園で開催されました。出展にあたっては、西日本短期大学緑地環境学科と一緒にデザイン、設営を行いました。



■福岡市都市緑化イベント「グリッピーキャンペーン」への出展・後援

平成27年10月17日・18日2日間、舞鶴公園(福岡城址)で福岡市が都市緑化月間に合わせて開催する「グリッピーキャンペーン」へ出展・名義後援を行いました。CLA九州支部は、「思いつき、芝生で遊ぼう」をテーマにゾープを出展しました。公園を訪れた市民に大人気で、2日間で400名を超す利用がありました。



■「福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会」(FD)の開催

CLA九州支部では、平成25年5月からCLA会員職員、行政職員、学生及び造園施工会社職員などランドスケープに関心のある方々が自由に参加でき、毎月第2金曜日の夜に研修会と意見交換会を開催しています。



■西日本短期大学緑地環境学科主催の「ふくおか、みどりの研修会」を共催

西日本短期大学緑地環境学科では、学生と社会人の交流を目的に(一社)福岡市造園建設業協会との主催で「ふくおか、みどり研修会」が平成28年9月11日に二文キャンパスで開催されました。CLA九州支部では、交流ワークショップの企画・運営を行うとともに、「協会の仕事」をポスター出展しました。研究会終了後は、学生や参加者の皆さんとバーベキューを囲み、楽しい時間を過ごしました。



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 会員名簿

正会員 71

◎:会長 ○:副会長 ▽:専務理事 ◇:理事 □:監事

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
機アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	望月英彦	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018
機アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇ 大杉哲哉	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡Dビル	092-482-8021
機環境設計事務所	03-3291-3380	趙 賢一	101-0064	千代田区猿樂町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381
機あい造園設計事務所	03-3325-6660	細谷恒夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS第一ビル	03-3325-6262
朝日航洋機	03-3522-7161	八木鎮治	136-0082	江東区新木場4-7-41	03-3522-7162
機荒木造園設計	0727-61-8874	荒木美真	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234
機荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0833	広島市中区江波本町4-22	082-294-3575
機エイト日本技術開発	03-5385-5111	落合直文	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520
機エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	◇ 津田主税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617
機エステ環境設計研究所	092-271-3606	渡江章子	812-0028	福岡市博多区須崎町12-8	092-271-3662
機LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本忠順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサウウ新宿	03-3269-6715
機オオバ	03-3460-0127	菊谷 隆	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160
機環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	田中行雄	101-0041	千代田区神田須田町2-8-5 OS'85ビル	03-5209-3696
環境設計機	06-6261-2144	井上 健	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146
機環境設計研究室	03-5401-3900	納谷和親	105-0001	港区虎ノ門5-3-2 神谷町アネックス	03-5401-3905
機環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤文昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928
機環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下慶浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576
機環境研究所	06-6306-2481	宇都宮光史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614
機環境グローム	097-534-1436	稲垣英樹	870-0046	大分市荷揚町10-13	097-537-8578
キタイ設計機	0748-46-4902	梶 雅弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620
機空間創研	075-353-6337	○ 宇戸睦雄	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ瀬下る鎌屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338
機グラック	03-3249-3010	◎ 枝吉茂種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一鶴物ビル	03-5645-7685
機KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301
機景観プランニング	028-650-3030	後藤昌巳	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034
機建設環境研究所	03-3988-1818	浦川雅太	170-0013	豊島区東池袋2-23-2	03-3988-2018
機公園マネジメント研究所	06-6947-6522	小野 隆	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6947-6523
サンコーコンサルタント機	03-3683-7152	串田宗史	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116
株式会社シン技術コンサル	011-859-2604	佐々木公明	003-0021	札幌市白石区栄通2-8-30	011-859-2614
機新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260
機スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-6591	大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル	06-6942-6897
機セット設計事務所	042-324-0724	和田 淳	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
機ZEN 環境設計	092-643-5500	中村久二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520
機環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692
機総合計画機構	06-6942-1877	濱口和雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6942-2447
機総合設計研究所	03-3263-5954	◇ 石井古はる	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996
第一復建機	095-557-1300	島山美久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110
大日本コンサルタント機	048-988-8114	酒井康弘	343-0851	越谷市七左町5-	048-988-8184
高野ランドスケーププランニング機	0155-42-3181	◇ 金清典広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チャンネル小学校	0155-42-3863
玉野総合コンサルタント機	052-979-9111	吉田勇次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112
機地域計画建築研究所	06-6205-3600	畑中直樹	541-0042	大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル	06-6205-3601
機地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
中央コンサルタント機	052-551-2541	藤本博史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540
機環境緑地研究所	043-279-8005	□ 塚原道夫	261-0011	千葉市美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
機東京ランドスケープ研究所	03-6859-1088	◇ 小林 新	151-0071	渋谷区本町1-4-3 エバーグレイス本町	03-6859-1087
機ドーコン	011-801-1535	大塚英典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536
機都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	大矢京子	540-0037	大阪市中央区内平野町1-3-7 ベルヴォア内平野	06-6946-9747
機都市計画研究所	03-3262-6341	○ 石川 純	103-0014	中央区日本橋蛸薬町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
機都市ランドスケープ	03-5269-8982	▽ 内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム錦舎	03-6685-8712
機中根庭園研究所	075-465-2373	中根史郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374
機虹設計事務所	03-3419-7259	光益尚登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246
機日本総合計画研究所	03-3254-9668	星野嘉郎	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
機ニュージェック	06-6374-4032	堀内康介	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
バシフィックコンサルタンツ機	03-6777-4433	西上律治	101-8462	千代田区神田錦町3-22	03-3296-0530
機フジランドスケープ	03-5719-2919	◇ 新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
機復建技術コンサルタント	022-262-1234	仲村明信	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
機復建調査設計機	082-506-1853	来山尚義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
機プランニングネットワーク	03-3810-9381	◇ 萩野一彦	114-0012	北区田端新町3-14-6	03-3810-9384
機ブレック研究所	03-5226-1101	石垣良弘	102-0083	千代田区麹町3-7-6 麹町PRECビル	03-5226-1112
機ヘッズ	06-6373-9369	中西広樹	530-0022	大阪市北区浪花町12-24	06-6373-9370
北海道造園設計機	011-758-2261	◇ 及川 渉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
機ポリテック・エイティディ	03-6222-8912	山口信逸	104-0041	中央区新富1-18-8 RBM築地スクエア	03-5541-3510
機三菱地所設計	03-3287-5750	□ 植田直樹	100-0005	千代田区丸の内2-5-1丸の内二丁目ビル	03-3287-3230
機緑設計	0188-62-4263	◇ 板垣清美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	0188-62-4273
機緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
機森緑地設計事務所	03-5484-6070	藤内誠一	108-0014	港区芝5-26-30 専売ビル	03-5484-1550
機UR リンケージ	03-6214-5700	石田 晶	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
機ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇ 金子隆行	136-0071	江東区亀戸6-58-12	03-5626-4740
機LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青木成夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
機ランズ計画研究所	045-322-0581	川島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-36	045-322-0719
機リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井英光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
機緑景	06-6763-7167	瀬川勝之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599

準会員 9

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
あい環境設計研究所	080-2786-7546	扇 輝久	814-0142	福岡市城南区片江1-2-35	
南エコビルデザイン	03-5362-3701	上村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK信濃町ビル	03-5362-3702
機エコル	03-5791-2901	矢島唯弘	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪管成ビル	03-5791-2902
機環境緑地研究所	011-221-4101	村上恒久	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
機現代ランドスケープ	06-6203-1270	西辻俊明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
機シビテック	011-816-3001	三浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
ダイシン設計機	011-222-2325	関 利洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
機辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本智子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
機都市・景観設計	06-6228-3388	奥村信一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387

賛助会員 40

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX 番号
アゴラ造園機	03-3997-2108	荻野淳司	179-0075	練馬区高松 6-2-18	03-3997-2252
石黒体育施設機	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡 2-27-18	052-763-8110
機ウォーターデザイン	03-3431-8070	山本 誠	105-0004	港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業機	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市中区好本町 3-67	052-351-1326
H.O.C 機	0956-48-8101	鎮流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町 221-2	0956-48-8111
機岡部	0764-41-4651	竹中祐利	930-0026	富山市八人町 6-2	0764-31-6340
快工房機	048-291-7721	晴岡邦男	333-0816	川口市差間 2-14-5	048-291-7725
小岩金網機	03-5828-8828	一戸典夫	111-0035	台東区西浅草 3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
機コトブキ	03-5280-5400	中野 竜	105-0013	港区浜松町 1-14-5 D.I. センター	03-5280-5768
機コンパスサービス	03-5920-7031	鍵谷竹志	174-0064	東京都板橋区中台 2-15-8-104	03-5920-7032
機ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	杉本吉正	101-0044	千代田区鍛冶町 1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
機サカア	0422-47-5981	栗田耕司	181-0004	三鷹市新川 4-7-19	0422-49-2122
機サトミ産業	0258-87-5500	佐藤 勉	940-0871	長岡市北陽 2-14-23	0258-87-5501
機三英 景観事業部	04-7153-3141	鈴木正博	270-0114	流山市東初石 6-128-1 新 C69 街区 7	04-7153-3146
信建工業機	054-276-2151	阿部和茂	421-1212	静岡市葵区千代 1-18-29	054-276-2154
西武造園機	03-5926-5418	高橋尚史	171-0051	豊島区長崎 5-1-34 東長崎西武ビル	03-5926-5353
機第一造園	03-3726-4381	流郷幹男	145-0062	大田区北千束 2-18-7	03-3727-6744
太保工業機 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴木久文	153-0043	目黒区東山 8-16-19	03-3791-7731
大和リース機	06-6942-8011	野田夏夫	540-001	大阪市中央区農人橋 2-1-36	06-6942-8051
タカオ機	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原 1787-1	0849-55-2481
機中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町 2-27	0561-53-1000
テック大洋工業機	03-5703-1441	小俣智裕	144-0052	大田区蒲田 4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業機	03-3405-1813	田中秀明	106-0032	港区六本木 7-3-7	03-3405-4210
東邦レオ機	06-6767-1110	木田幸男	540-0005	大阪市中央区上町 1-1-28	06-6767-1263
機ドゥサイエンス	03-5561-9751	香取良一	106-0032	港区六本木 4-1-16 六本木ハイツ 511 号	03-5561-9726
トースイ機	03-5276-1101	星野弘壽	102-0093	千代田区平河町 1-7-7	03-5276-1117
トローマテラン機	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町 1512	0568-88-3370
中村シラトリ機	0543-35-6271	石田勝若	424-091	静岡市清水区宮加三 660 番地	0543-35-6273
機中村製作所	047-330-1111	朝倉辰夫	271-0093	松戸市小山 510	047-330-1119
機ナベシマ	093-617-3039	鍋島雅英	807-1262	北九州市八幡西区野面 1101-1	093-617-3040
日都産業機	03-3333-0210	結城健治	167-0053	杉並区西荻南 1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設機	03-5337-2616	奥 裕之	164-0003	中野区東中野 3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設機	03-3422-5331	中田慎一	154-0004	世田谷区太子堂 1-4-21	03-3412-8415
花豊造園機	075-341-2246	山田拓広	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町 518 番地	075-361-0961
日日石材機	03-5637-9211	加藤文彦	131-0033	墨田区向島 3-39-14	03-5637-9213
機日比谷アメニス	03-3453-2402	奥本 寛	108-0073	港区三田 4-7-27	03-3453-2417
機富士植木	03-3265-6731	成家 岳	102-0074	千代田区九段南 4-1-9	03-3265-3031
機丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸 7-5-1	03-3683-7553
機モクラボ	0790-66-3210	関根純一	671-241	姫路市安富町三森 421-3	0790-66-3810
機ユニソン西日本	06-6228-7820	松岡孝太郎	541-0046	大阪市中央区平野町 3-6-1	06-6228-7860

登録ランドスケープアーキテクト [RLA] Registered Landscape Architect

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会（略称 CLA）では、現在および将来の人々の安全・環境・文化・福祉に対する責任を自覚し、地球環境時代における美しい都市・地域づくりを担うランドスケープアーキテクチャ業務を遂行するために必要な一定水準の知識・技術・能力を持つ者を、登録ランドスケープアーキテクト（略称 RLA）として登録・認定する資格制度を展開しています。

この資格制度は、我が国の社会経済情勢に対応し、国際的技術水準に即して、ランドスケープアーキテクチャ業務を円滑かつ的確に遂行すること、業務成果の技術水準を高めること、及びランドスケープアーキテクトの社会的地位向上を図ること、を目的としています。

登録ランドスケープアーキテクトは、ランドスケープアーキテクチャ業務の遂行に関わるわが国唯一の資格であり、2016年2月に国土交通省による登録資格として認定されました。

一方、この資格制度をより一般的なものとし、ランドスケープアーキテクトの社会的認知度を向上し、裾野を広げるため、2014年度から「RLA 補」を導入いたしました。RLA 補は RLA が実施する業務を補助できる知識と能力を持つ者をいい、経験の少ない若い技術者や学生を対象として登録・認定するものです。

[RLA の受験資格]

- ◎大卒者（指定学科）：卒業後3年以上の業務経験者
- ◎大卒者（指定学科以外）：卒業後5年以上の業務経験者
- ◎この内1年以上の主体的立場での実務経験が必要で
- ◎その他詳細は、受験手引き等を参照してください

[RLA 補の受験資格]

- ◎受験資格は問いません。ランドスケープに興味を抱き、ランドスケープに関して必要な勉強をすればどなたでも受験することができます
- ◎ RLA 補の試験内容は、RLA の試験の内、一次試験（その1、その2）に合格すれば、登録できます

[RLA の試験日程]

- ◎試験実施日：毎年1回、秋に実施
- ◎受験申込：毎年6月1日～7月10日に受付
- ◎試験会場：東京・大阪・福岡

[RLA の試験内容]

- ◎一次試験（その1）：択一問題（基本的知識）80問/80分
基礎知識（専門実務）、計画原論・設計基礎、自然の体系、歴史・文化等に関する知識を問う問題
- ◎一次試験（その2）：択一問題（設計知識）80問/80分
植栽・土壌、造園工学・造園施設材料、造成・排水、日本の伝統造園手法、等に関する知識を問う問題
- ◎二次試験（その1）：実技問題（計画実技）2問/110分
No.1 土地利用ダイアグラムに関する問題
No.2 敷地計画に関する問題
※出題のテーマはホームページにて公表いたします
- ◎二次試験（その2）：実技問題（設計実技）3問/175分
No.3 割付・造成・排水計画に関する問題
No.4 植栽計画・設計に関する問題
No.5 詳細図作成に関する問題
※出題のテーマはホームページにて公表いたします
- ◎上記4つの部門は、部門毎の合格が可能で、4部門全てに合格した方が、RLA として登録することができます

編集後記

CLA journal は今年度より CLA 賞の受賞作品の発表にあわせて秋の発行となりました。
今号はその CLA 賞受賞作品の紹介と、意欲的な都市公園再生プロジェクトの提案、CLA 各支部の活発な活動報告などを掲載しています。
CLA 賞は優秀賞4作品、特別賞1作品、奨励賞2作品が受賞されました。選考に携わり、多くの力作と向き合えたことがこの上ない刺激と受賞技術者への敬意で満たされました。今号が受賞作品や各支部をはじめ、ランドスケープコンサルタンツの PR になるとともに、皆様への情報発信とスキルアップのお役に立てればと期待しております。(C.I.)

CLA journal

177

発行日◎ 2016年10月28日
発行人◎ 松吉茂雄
編集◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会
発行所◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3362-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.jp